

(様式3)

農業研究成果情報

No. 807 (平成29年5月) 分類コード 02-09 熊本県農林水産部

ヒリュウ台「河内晩柑」では初着果時に樹冠上部1/2を無着果にすると樹冠拡大できる

ヒリュウ台「河内晩柑」では、初着果の際、樹冠上部を2分の1程度無着果にし、着果負担を軽減することで、全面着果させる場合より早期に樹冠が拡大し、その後の収量が向上する。

農業研究センター天草農業研究所 (担当者: 佐々木 雲海)

研究のねらい

わい性台木を利用したヒリュウ台「河内晩柑」は、低樹高化が図られ、管理作業の省力および軽労働化が図られるため、近年徐々に植栽され初着果を迎えようとしている。しかし、ヒリュウ台は着果すると樹冠が拡大しにくい特徴があり、若木の管理が重要であるが、その着果技術が確立していない。

そこで、ヒリュウ台「河内晩柑」の早期樹冠拡大を図るために、初着果時に樹冠上部を無着果にする方法(表1)の有効性について明らかにする。

研究の成果

1. 樹冠上部を1/2程度無着果(葉果比200程度)にすると、全面着果(葉果比100程度)に比べ、初着果1年目の樹高および樹冠容積が増大する(表1、2)。
2. 果実肥大は、樹冠上部1/2無着果が全面着果より大きく、糖度は樹冠上部1/2無着果より全面着果区が高い(表3)。
3. 初着果以降の2、3年目の樹冠容積は、樹冠上部1/2無着果が大きく、樹当たりの総収量も多い(図1、2)。

普及上の留意点

1. 現地(有明町)5年生ヒリュウ台「河内晩柑」での初着果の結果で、樹高1.8m以上での初着果とした。
2. ヒリュウ台は樹冠拡大が遅く、着果するとさらに抑制されるため、未結果樹期に十分樹冠拡大を図る必要がある。

表1 初着果方法 (現地)

処理区	処理方法	目安の葉果比
		葉数/果
樹冠上部1/2無着果	7月下旬に樹冠上部2分の1を無着果とする	200
全面着果	内、裾なり果を主体に摘果する	100

注1) 5年生樹の初着果

注2) 樹の全葉数を調査後、7月下旬に目安の葉果比に摘果

表2 初着果方法の違いが初着果1年目の樹高および樹冠容積に及ぼす影響(現地)

処理区	樹高		増加率	樹冠容積		増加率
	初着果前	初着果後		初着果前	初着果後	
		m	%	m ³	m ³	%
樹冠上部1/2無着果	1.92	2.01	4.0	3.93	6.09	53.7
全面着果	1.87	1.89	1.1	3.54	4.25	21.6

注) 初着果前は平成25年4月8日、初着果後は平成26年4月30日に調査

表3 着果方法の違いが果実品質に与える影響(現地)

処理区	1果重	果肉歩合	糖度	クエン酸濃度
	g	%	(Brix)	%
樹冠上部1/2無着果	356	61.3	10.7	0.97
全面着果	310	64.7	11.7	0.99

注1) 分析果実収穫日: 平成26年3月14日、分析日: 平成26年3月22日

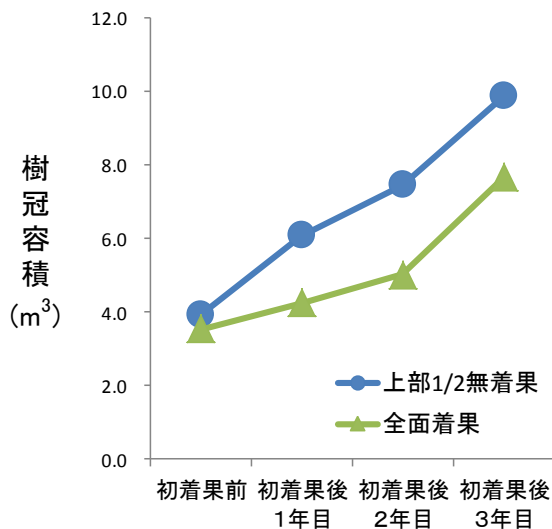


図1 初着果後の樹冠容積の推移 (H25.2~H28.3 現地)

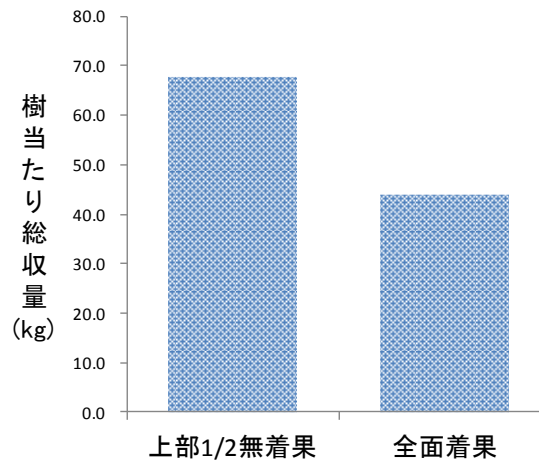


図2 初着果後の樹当たりの3ヶ年総収量 (H26.2~H28.3 現地)